

『都市の経済学 小テスト No. 4』

以下の各問に答えよ。解答はマークシート方式となっている。

※□で囲まれた数字は解答番号を示す。○で囲まれた数字は選択肢番号を示す。

問 1. 予算制約線について

1.1. ある人の予算制約線は図の C_1 であるとする。合成財の価格を 1 円/個とすると、この人の予算総額は **1** (①100、②200、③3000、④10 万、⑤20 万、**⑥30 万**) 円である。また、この人が直面している賃貸市場では 1 m^2 あたりの家賃は **2** (①100、②200、③1500、**④3000**、⑤15 万、⑥30 万) 円である。

1.2. 予算制約線上の全ての財の組合せは、購入することが **3** (**①可能**、②不可能、③不明) である。

問 2. 最適な消費について

2.1. 最適な消費をしているとき、予算制約線と無差別曲線は **4** (①交わらない、**②1 点で接する**、③2 点で交わる、④その他)。

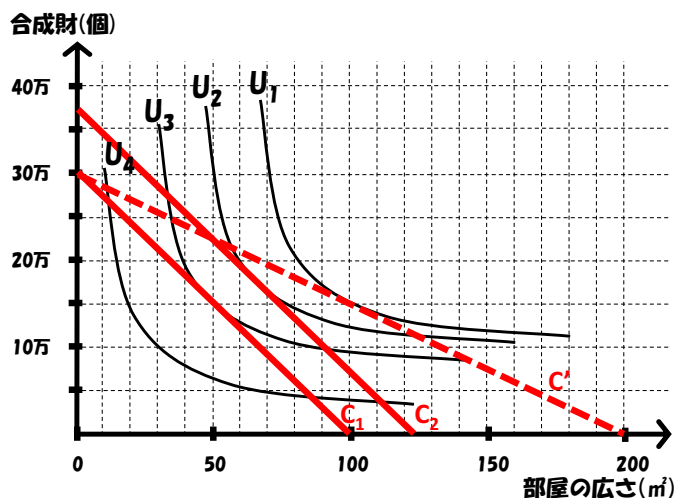
2.2. 図で予算制約線が C_2 のとき、達成できる最も高い効用水準は無差別曲線 **5** (① U_1 、**② U_2** 、③ U_3 、④ U_4) である。

2.3. 2.2.の問題において、お金が不足するために選ぶことのない無差別曲線は **6** (**① U_1** 、② U_2 、③ U_3 、④ U_4 、⑤ U_1 と U_2 、⑥その他) である。

2.4. ある人の予算制約線はもともと C_1 であった。家賃水準が変化したことで予算制約線が C_1 から C' にシフトした。この時、 1 m^2 あたりの家賃は **7** (①100、②750、**③1500**、④7.5 万、⑤15 万、⑥その他) 円である。

2.5. ある人の予算制約線はもともと C_1 であった。ここで、家賃補助政策を実施したことで U_1 が最適な効用 (=満足度) を表す無差別曲線となった。このとき、 1 m^2 あたりの補助金は **8** (**③1500**、④7.5 万、⑤15 万、⑥その他) 円である。

図. 無差別曲線と予算制約線



2.5. 補助金を受けることで予算制約線が C_1 から C_2 へと移動し、達成できる効用水準も図の通りに変化した。この補助金は **9** (①家賃補助、**②所得補助**、③事業補助、④その他) である。